三重病院レポート

# 第5回 ハンドボール女子ユース 世界選手権に帯同して…

いざ出陣

7月20日～8月3日にマケドニア共和国で開催されたハンドボール女子ユース世界選手権（18歳以下）に日本代表チームのドクターとして参加してきました。

**マケドニア共和国…、なかなか聞きなれない国だと思います。**僕自身も当初『どこ?』からはじまりました。旧ユーゴスラビア連邦の構成国の一つで、ギリシャの北側に位置し、九州の3分の2ほどの広さの国です。ハンドボールは日本においては、あまり人気は高くありませんが、ヨーロッパの多くの国では非常に人気があり、マケドニアでは最も人気のあるスポーツです。

チームメンバーと貝沼医師

さて、**帯同ドクターとしての仕事は、選手およびスタッフのコンディション管理、ケガへの対応があります。**コンディション管理には、約30時間に及ぶ大移動に伴う疲労、睡眠不足、時差ボケ、または宿舎の湿度、温度といった身体的な管理はもちろんのこと、非常にナーバスな環境での遠征であるため、できる限り衣食住といった生活面での不安を取り除き、モチベーションの安定を図ることも重要な任務です。時には街へ出て明るい気分にすることもありますし、時には穏やかな景色のよい浜辺でゆったりとした時間を持つことも大切です。16人の選手に対し、スタッフは私を含めて4名だけですので、とにかくスタッフ間でのコミュニケーションを密にして、16人の選手たちの様々な心情に配慮した工夫を重ねてまいりました。

医師としての仕事以外にも、通訳として現地スタッフとの交渉、メディア対応、さらに僕自身は、ハンドボールの公認審判員をしていることもあり、練習中の審判はもちろんのこと、各試合においても審判の癖を分析するなど、**監督、コーチとともにハンドボールそのものにもかかわることができたことも非常にうれしいことでした。**

さて、結果はというと…、世界14位でした。この順位を皆さまがどう思われるかはわかりません。東京五輪を担う世代にとって初めての世界の舞台としては、勝利を求められる代表チームの結果としては物足りないものですが、この14位という数字以上に内容が濃い大会でした。強豪がそろうヨーロッパ勢と互角の戦いを繰り広げ、フランスには勝利を収めました。平均身長が出場国中最も低く、**チーム平均15cm以上大きい相手に真っ向勝負を挑み、試合終了まで決して試合をあきらめないその姿は、世界中のハンドボールファンを魅了し、**試合中に観客席から聞こえる日本への『Japan! Japan!』という声援、試合後に求められるサイン、写真、握手の数々。**このチームのドクターでいられることを誇りに思えた瞬間でした。**

東京オリンピックまであと6年。医科学スタッフとして、より強力なサポートができる体制づくりを任されることを誇りに思い、取り組んでいきたいと思います。最後になりましたが、3週間もの遠征のため不在にしたもののご理解いただきました患者さん、スタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

（小児科　貝沼　圭吾）

日本ファンの女の子

試合風景

## 9月 三重病院 外来糖尿病教室のお知らせ

**日時** 平成26年9月24日(水) 14:00～15:00

**場所** 中央棟2階　大会議室
（詳しくは職員にお尋ねください。）

**担当** 2病棟看護師、内科 荒木里香

## 災害に備える

地震、台風、集中豪雨などで、突然、
通常の生活が送れなくなったらどうしますか?
糖尿病患者さんに必要な災害への備えについて
一緒に考えましょう。

★ご興味のある方は、どなたでも当日直接会場にお越しください。
★参加費は無料です。

お問い合わせは 059-232-2531 内科外来まで